

集会アピール（案）

1993年3月30日、水戸駅構内において、遅延していた上野発青森行き「ゆうづる3号」に触車し、作業員3名が死亡、1名が重体という痛ましい事故から30年が経過した。

JR東日本は、新型コロナウイルス感染症により、赤字経営から第3四半期決算まで黒字を確保したが、有利子の負債が増加傾向であると経営環境は厳しい傾向が続いています。「現業機関における柔軟な働き方の実現」をはじめ「組織再編について」提案し、グループ経営ビジョン「変革2027」の実現に向けて取り組んでいます。

駅や乗務員区などの複数の職場をエリアセンター化して一つの職場を複数の駅を受け持つ社員運用体制が図られた。融合と連携という新たな業務が社員の不安を増しています。

3.18ダイヤ改正は、ワンマン運転化、駅無人化の拡大は利用者の安全や業務の増大も予想され、乗務・駅業務・企画業務など一日にいろいろな業務に就き不慣れなミスやケガがでる可能性が想定されます。

駅職場の委託化や無人化の拡大は、利用者へのサービス低下、駅周辺での治安の問題や、駅の一人勤務では異常時対応などで不安の声があります。

今後、設備部門でも設備技術センターが新設し、いくつかの業務をひとりでも出来ると要員を削減し、スマートメンテナンス体制で徹底したコスト削減を目指しています。しかし、今月に起きた川越線のあわや正面衝突寸前事故は、システムに頼り過ぎると重大事故へとつながる事象であったことを見逃してはいけません。私たちは安全・安定輸送の確立を目指します。

水戸地方本部はコストダウンを至上命題とする安易な外注化、委託化は許さない立場を明確にし、要員問題・労働条件の低下と技術継承の形骸化を許さない取り組みや要求実現のために労働組合の必要性和国労運動の正当性を訴え、組織強化・拡大に取り組めます。

3.30事故を風化させず、林弘さんをはじめ亡くなられた方の死を無駄にすることなく、これからも人命尊重、安全作業の確立、JRを安心して利用するお客さまとグループ会社で働く労働者が安心して働ける職場環境に向けて闘い抜く決意である。

以上

2023年3月30日
生命と権利を守る！3,30集会

2023年3月30日

生命と権利を守る！

3.30集会



- 開会あいさつ
- 黙祷
- 主催者あいさつ
- 各機関からの報告
- 集会アピール
- 閉会あいさつ